イタリア巡礼とルルドへの旅 ②

サンジョヴァンニ・ロトンド San Giovannni Rotondo

ピオ神父巡礼教会 Chiesa di Padre Pio

訪問:2016年5月19日(木)

設計:レンツォ・ピアノ Renzo Piano (イタリア、ジェノヴァ出身の

著名な建築家) 完成:2004年

ピオ神父が暮らした地、教会内に遺体が安置され、世界中から巡礼者が集う

ピオ神父 (1887-1968) は、1887 年に南イタリアの小さな農村ピエトレルチーナに生まれ、カプチン会の修道士、司祭となる。聖痕や病気の癒しで有名である。1968 年サンジョヴァンニ・ロトンドで 81 歳にて帰天。

ローマ教皇ヨハネ・パウロ2世によって1999年に列福され、2002年に列聖された。



ローマからサンジョヴァンニ・ロトンドへは $391\,\mathrm{k}$ m。朝 7 時過ぎバスに乗り、まずは朝の祈りが始まります。キム神父様のさわやかな美声が「いつもほがらかに、健やかに」とマイクから流れ、お告げの祈り、今日の福音、慈しみの特別聖年の祈りに続いて、「ロザリオを唱えましょう」で主の祈り、アヴェマリアの祈り、栄唱、ファティマの祈り、「あめのきさき」を歌い、ロザリオの珠を繰りながら一まわりすると 50 回で「一環」。皆で声をそろえて朝 1 時間のお祈り、短い昼の祈り、夕方 6 時の祈りも 1 時間、これをバスの中で毎日続ける巡礼の旅でした。

訪れた各地の歴史ある聖堂(ローマのジェス教会、ピオ神父の古教会、アッシジ修道院聖堂、フィレンチェのサンタマリア・デル・フィオーレ大聖堂、ルルドのサクレクール教会)では、5人の神父様と現地の神父様による大司祭団のミサにあずかることができました。





ピオ神父の建てた病院

ピオ神父の遺体



青い屋根は、建築家レンツォ・ピアノ設計のピオ神父巡礼教会。その向こうに病院が見える。 レンツォ・ピアノは「ポンピドーセンター」、「関西国際空港」などを設計、プリツカー賞受賞。



斬新な形状の屋根を持つ教会は、ゆるやかな山の景色と調和し、地下にも聖堂がある。サンジョヴァンニ・ロトンドは、ガルガーノ半島のなだらかな山の連なる地形で気候も良く、病弱なピオ神父はこの地に住みたいと思ったという。オリーブの木々はゲッセマネの園のようだ。



屋外での礼拝用聖壇

美しいステンドグラスの壁面

建築費のほぼ全額を巡礼者の寄付でまかなった教会は、内部 6000 平方メートル、7000 人収容。イタリア国内でも大規模な教会のひとつ。





十字架とベル



1階里堂 大小のアーチを組み合わせたデザインは聖霊降臨のイメージに見えた。





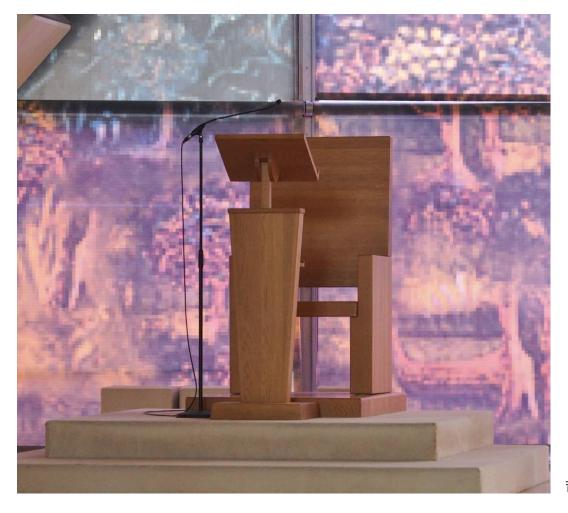




聖 壇



説 教 台

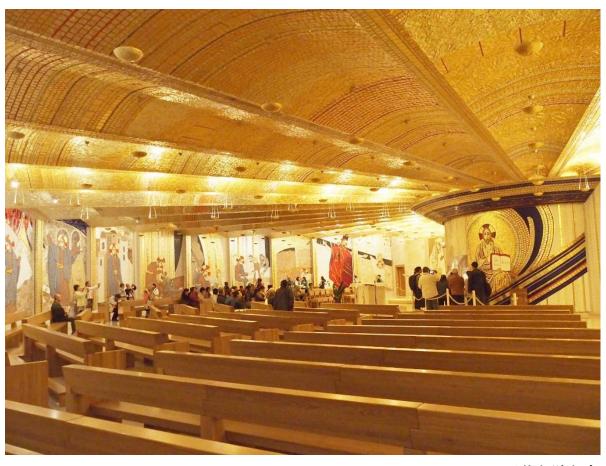


司祭席

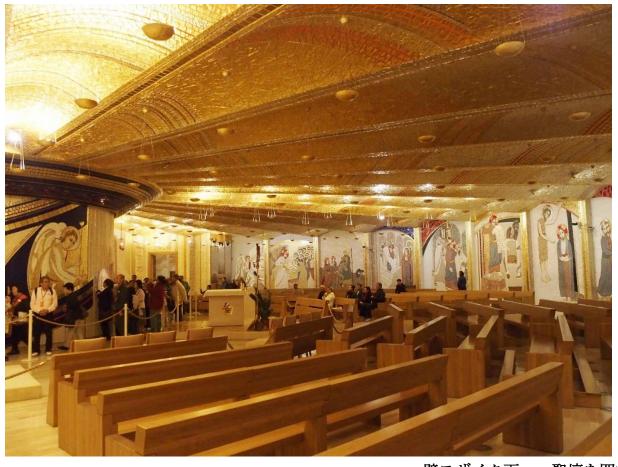


聖 卓

ピオ神父が眠る地下聖堂



天井も壁も金モザイク



壁モザイク画 聖壇を囲む会衆席



ピオ神父の遺体を見る巡礼者



ピオ神父の遺体



聖卓

十字架の道行



ピオ神父が信仰生活を営んだ教会堂



左側の白い建物は古教会

右側は新教会(1959年竣工)

